

4. 戦略・施策体系図

	＜戦略1＞産業活動を支えるための基盤を整備する	＜戦略2＞区内の産業人の自己変革や連携を応援する	＜戦略3＞新しい時代に向けた産業の風を巻き起こす
工業	【基本目標】 受け継がれるものづくりの地盤と新たな価値の融合により、光輝く板橋ブランドを確立する		
	ものづくり産業の基盤整備 ○立地促進及び継続支援 ○産業のまちづくりの推進 ○産業防災体制の構築 ○事業承継の支援	地場産業力の向上 ○新製品・新技術開発支援 ○先端企業・研究機関・異分野等との連携 ○販路拡大・取引支援 ○ものづくり企業サポート拠点 ○経営者変革支援	新たな企業立地や産業集積の推進 ○研究開発型企業誘致等 ○ものづくりベンチャーの育成支援 ○ものづくり企業サポート拠点 ○立地価値を高める産業ブランド構築
	【基本目標】 商店街や個店の個性が光る活気あふれる商いの場を実現する		
商業その他産業	商業その他産業の基盤整備 ○商店街の基盤整備 ○商店街と地域との連携 ○商業者経営サポートの強化 ○事業承継の支援	商店街の魅力再生 ○魅力ある商店街づくり (にぎわいのあるまちづくり) ○複数の商店街の連携事業 ○多言語対応 ○商店街の維持・発展の支援	個店の商いの向上 ○個店魅力アップ支援 ○多店舗展開支援 ○経営者変革支援 ○起業家の育成
農業	【基本目標】 活力ある農業と大地の恵みを未来へつなぎ、潤いある区民生活と都市空間を創出する		
	農業従事者の育成と農地の保全 ～農の継承～ ○農業の新たな承継者の養成の仕組みの構築 ○農業従事環境の改善のための協働 ○都市計画など土地利用の視点による農地の保全 ○生産性向上のための支援 ○農業経営支援のためのネットワークづくり	板橋産の農作物の活用 ～地産地消の伸展～ ○地産地消のための仕組みづくり ○板橋ブランドの普及促進 ○品質・トレーサビリティの強化策 ○イベントを通じたふれあいの推進 ○農産物需給の安定化	農の多面的な機能の活用 ～農の無限の可能性～ ○農の景観保持や防災機能の促進 ○教育素材や文化創造機能としての活用 ○観光資源など新たな活用の検討 ○他の産業分野との新たな連携の促進 ○板橋区版6次産業の展開
共通	産業ミュージアムの整備 ○(仮称)板橋産業ミュージアムの整備		

板橋区産業振興構想 2025 (素案) 概要

1. 板橋区産業振興構想 2025 策定にあたって

＜前構想について＞

【前構想の将来像】 夢に形を 産業文化都市 いたばし	【前構想の主な成果】 ・ODF' 14 in Itabashi の開催 ・新河岸二丁目地区計画の決定 ・創業支援ネットワークによる支援 ・とれたて村の展開 等
【将来像実現のために】 新産業の育成～健康、環境、光・色彩～ 産業支援施策の強化	
【前構想の総括】 取組に一定の成果は見られたが、全ての目標の達成には至りませんでした。世界同時不況や東日本大震災等の外的要因や各施策間のつながりが弱かったこと等が主な理由に挙げられます。	



板橋区産業振興構想 2025 (以下「構想 2025」) では

- 将来像の実現に向けた方向性と戦略を明確にし、施策相互の関連性を強め、一体的な施策体系をもって強力に推進していきます。
- 外的要因の変化などに柔軟に対応できるように、構想と事業計画とを分離して計画を改訂しやすくします。

【構想期間】

平成28年度を初年度とする平成37年度までの10年間

【構想 2025 の位置づけ】

①産業活性化基本条例との関係性

条例第3条に定める産業活性化の基本方針

- ・事業者自らの創意工夫によって自律的な発展を促進します。 ・生活及び産業が調和したまちづくりを推進します。
- ・地域資源を積極的に活用して新たな価値を創造します。 ・事業者を中心に、区民及び区が一体となって産業の活性化に努めます。

条例第4条の規定に基づき、将来における区内産業のあるべき姿を想定した板橋区産業振興構想2025を策定します。

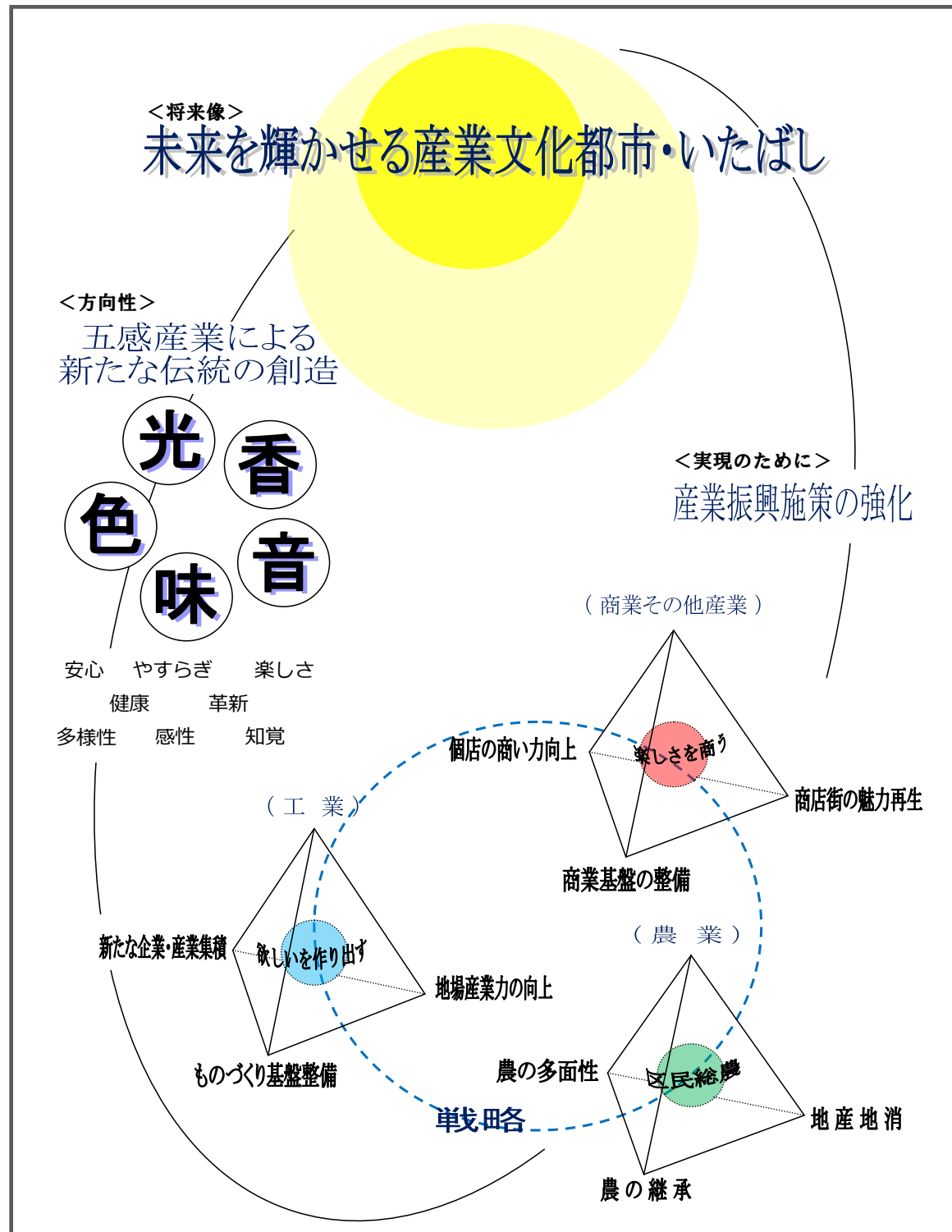
②政策体系における位置づけ

構想2025では、板橋区基本構想及び板橋区基本計画2025の考え方に基づき、より具体的な、区産業の将来像、将来像の実現に向けた方向性と、産業振興施策の強化に向けた戦略と各分野別目標、施策のあり方などを示すこととします。

③板橋区産業振興事業計画 2018 (以下「事業計画」) の策定

構想2025に基づき策定される事業計画は、区内産業の実態に即した施策展開を図るため、短期間ごとにPDCA (Plan=計画、Do=実行、Check=評価、Action=改善) を実施し、3年後に更新を行います。

2. 構想 2025 の全体像



3. 達成目標

工業	達成目標① 製造品出荷額等の都区内順位・額 (従業者数4人以上の事業所)	策定時 (平成26年調査)	5年後	10年後
			第1位 / 4,218億円	第1位 / 維持
商業	達成目標② 製造業付加価値率 (従業者数4人以上の事業所)	策定時 (平成26年調査)	5年後	10年後
		43.57%	策定時より増加	5年後から増加
商業	達成目標③ 1店舗(個店)当たりの売上額(中央値) (卸売業・小売業・宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業を対象)	策定時 (平成24年調査)	5年後	10年後
		1,000万円	策定時より増加	5年後から増加
	達成目標④ 商業・サービス業等事業所数 (卸売業・小売業・宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業を対象)	策定時 (平成24年調査)	5年後	10年後
	8,512箇所	維持	維持	

【将来像】未来を輝かせる産業文化都市・いたばし

板橋の三つの産業文化

技術や経験を“価値のあるもの”にする文化

身近なにぎわいと豊かさを地域にもたらす文化

みどり豊かな大地の恵みを地域に伝える文化

板橋区は、55万人が生活し、都区内トップクラスの工業集積と、身近なところにある商業のにぎわいと、同時に緑豊かな農業の息づく地域で、これらが約32km²という範囲内に凝縮されているのは、23区を含む他の大都市圏においてあまり見られない特徴であり、板橋区産業の個性といえるとともに、長い歴史の中で工業・商業・農業が独自の進化をしながら、それぞれの文化として存在感を持ち続けてきました。

【将来像の実現に向けた方向性】五感産業による新たな伝統の創造

構想2025では、人々の五感を通じて板橋区の既存の産業を新たに捉え直す、「五感産業」という視点を提唱します。五感とは、人が持つ視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の5つの感覚機能を指し、そこから派生して、ここでは、人のあらゆる感性をも意味する言葉と定義します。五感産業は、狭義では、人の感覚機能を代替することができる高度な五感技術を用いた革新的なデバイスの開発・普及を目指すものであり、また、広義には、人の感性に訴えて、人々の心を満たすような高い満足度を与える買物体験を通じて、ものやサービスを提供することを模索するものとなります。

そしてこの五感産業という視点を板橋区産業の各分野にあてはめてみると、例えば、工業分野では、板橋区の強みである光学産業の高度なセンシング技術を利用した介護ロボットや遠隔医療技術などの開発が進められ、商業その他産業分野では、買物をするときはもとより歩くだけでも楽しくなるような、共通のコンセプトを持った統一感のある街並デザインが施された商店街に個性の光る店舗が広がり、さらに農業分野では、農地を身近に感じることのできる様々な農業体験ができる場を区民に提供するということが考えられます。このように、既存の産業をこれまでとは異なる視点で見つめ直すことで、消費者や区民の感性を刺激することで消費を促す新しいタイプの産業として、地場産業の更なる発展の余地を見出すことができます。そして、その流れが時間を超えて、板橋区の新たな伝統産業として根付き、未来の区民に受け継がれていくことが期待されます。

【実現のために】産業振興施策の強化

<産業振興の戦略>

戦略1 産業活動を支えるための基盤を整備する

区内の産業人が安心して産業活動を継続できる環境を整えるとともに、貴重な技術や産業人としての志を次世代に継承するための仕組みなどを検討することにより、活発な産業活動を支えるための基盤を整備します。

戦略2 区内の産業人の自己変革や連携を応援する

経営改革や業務改善などの取組をサポートするとともに、新規販路開拓や新製品開発などの新たな取組、新たな連携ができるような仕組みを構築することにより、区内で産業に携わる人々が新しい時代に向けて持続し、成長できるような取組を応援します。

戦略3 新しい時代に向けた産業の風を巻き起こす

区外企業との交流や誘致、新規創業の促進などにより、先端技術やアイデアを持つ人々が区内で活発に産業活動ができる環境を作り、新しい時代に向けニーズを先取りできる産業や文化の創発を促し、都市産業に旋風を巻き起こします。

農業	達成目標⑤ 生産農家戸数に占める販売農家戸数の割合	策定時 (平成26年度調査)	5年後	10年後
			41.0%	策定時より増加
産業全般	達成目標⑥ 区民農園数	策定時 (平成27年度)	5年後	10年後
		39農園	策定時より増加	5年後を維持
産業全般	達成目標⑦ 創業比率	策定時 (平成21～24年調査)	5年後	10年後
		1.47%	策定時より増加	5年後から増加